

がんばろう、 の気持ちで。

危険が去っていくまで、じっと待つ。

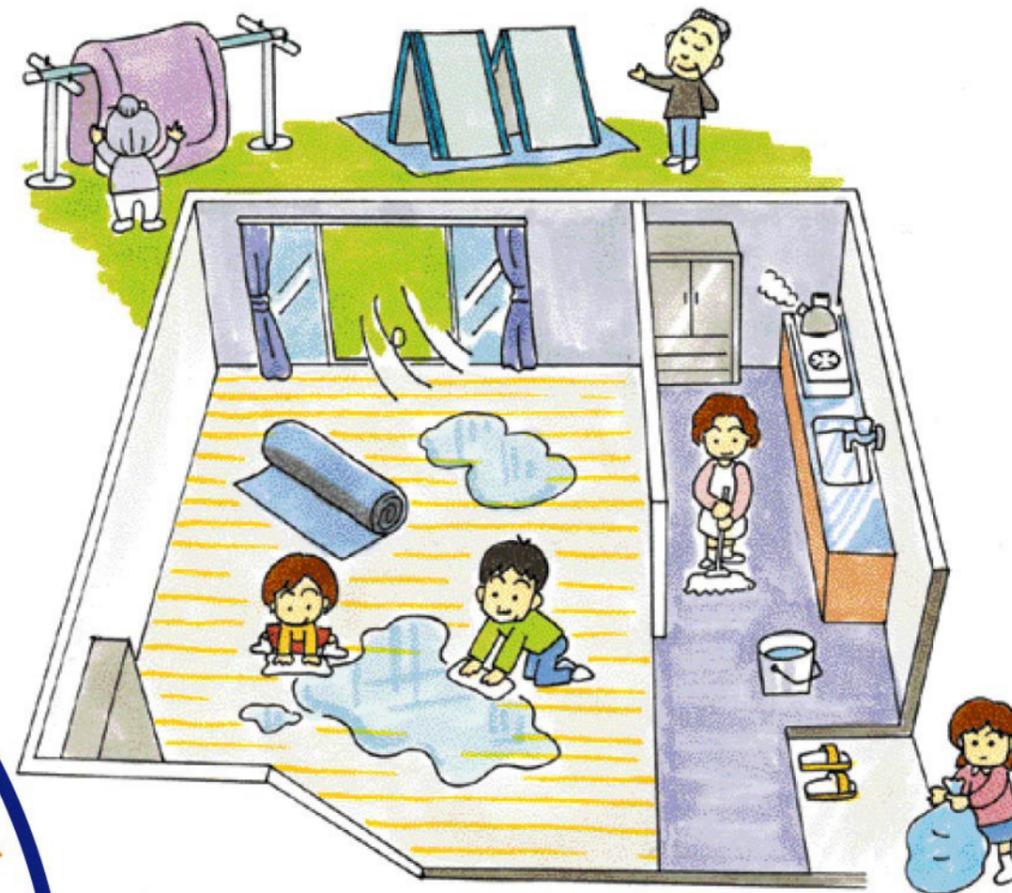
でも、もっとほかにもできることがある。はげましあうこと、助けあうこと。

おだやかなくらしを一日も早く取りもどすために、

時には力をあわせて、洪水に立ち向かう勇気をもって。

住まいの あと始末

洪水におそわれた住まいはたいへん。しかし気持ちを強く持って、まずは住まいの被害状況のチェックから。水害が適用される保険に入っていれば、もちろん保険会社へ連絡を。

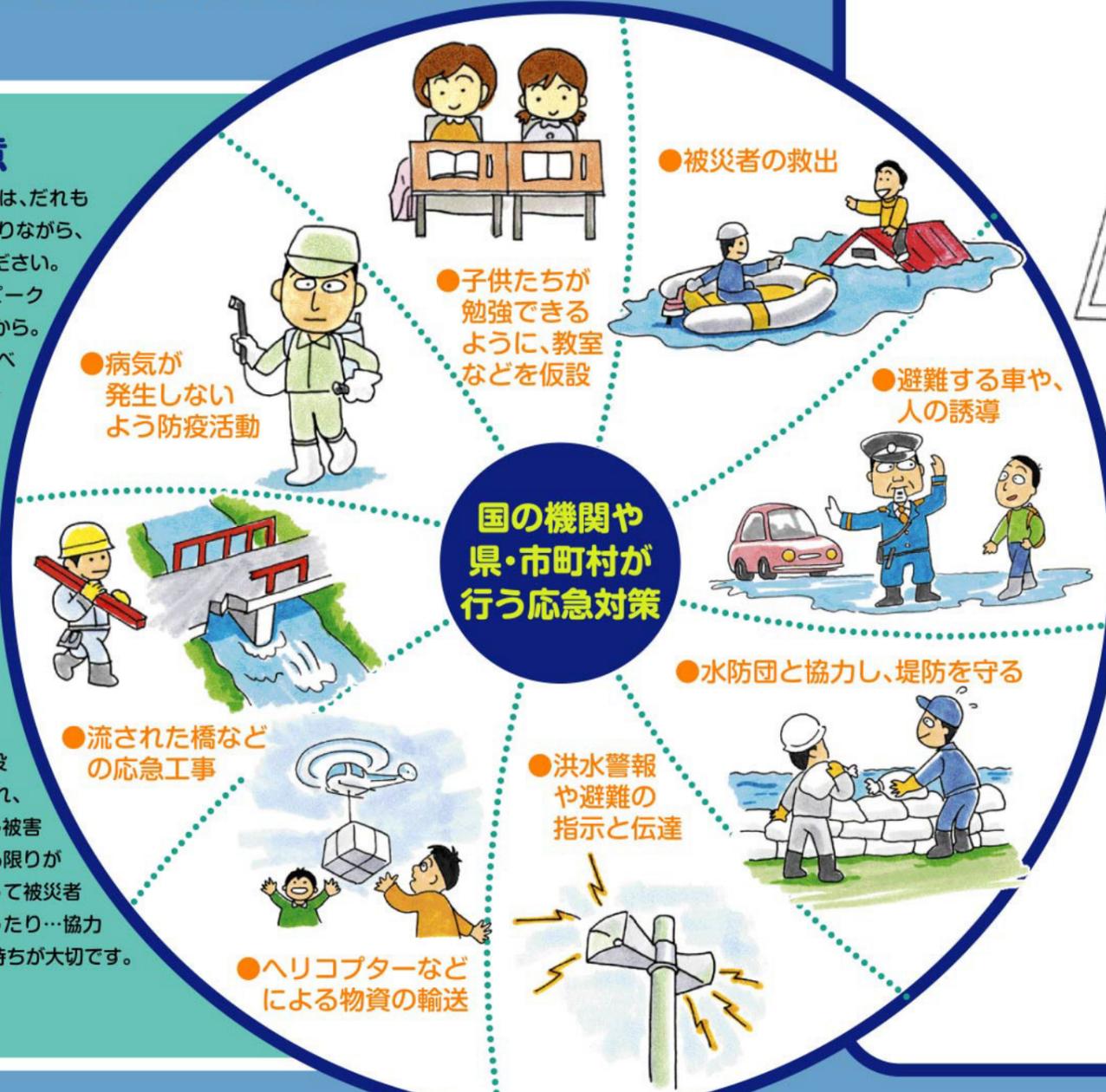


避難先での注意

いつもとちがう不自由な生活は、だれもが不安なもの。お互いをいたわりながら、責任者の指示にしたがってください。自宅へ帰れるのは雨や風がピークを越えたあと、安全を確かめてから。しかし大きな川の氾濫や地すべりは、遅れて発生することもなくありません。役場や水防団の情報から、慎重に判断して行動してください。

応急対策が とられるまで

水害が発生すると、市町村の役場などに災害対策本部が置かれ、応急対策が行われます。しかし被害が大きい場合は、その対策にも限りがあります。一人一人が助け合って被災者を救ったり、生活用品を分け合ったり…協力し合って災害から立ち直る気持ちが大切です。



●住まいの修理

安全を確かめてから、応急修理。家の中へ風を通し、乾燥させることも大切です。

●家財道具

水をかぶった家財道具は、水洗いをします。そのあとで石灰をまいたり、クレゾール液でふくなどの消毒をじゅうぶんに行ってください。市町村による防疫活動も行われます。

●電化製品・精密機械

水をかぶった電気製品は、家電店で点検と修理をしてもらいましょう。精密機械は一刻も早く専門店へ。

●電気・ガス

家中の設備を見回り、異常があればすぐに電力会社やガス会社に連絡を。

●水道

井戸も含めて、飲める水かどうか慎重に判断し、煮沸してから利用します。保健所で水質検査をしてもらえば万全です。

●じゅうたん・カーテン

よく水洗いをして干し、乾燥させてください。

●粗大ゴミ・家庭ゴミ

水をかぶって使えなくなったものや、流れてきたゴミはまとめてゴミ回収に。災害時のゴミは衛生上、早急に処理しなければなりません。被災から時間が経ち、ゴミが通常集配になってからの処理は、地区により回収できないものや、費用のかかるものがあるので、事前に市町村の清掃担当などに連絡を。

もし、洪水で被災したら…

